

日商簿記 1 級過去問ゼミ (CMC合格メソッド) ダウンロード講座

【第 131 回 : 工業簿記・原価計算】

収録日 : 平成 25 年 11 月 6 日

【総評】

この回は、直前の商業簿記で脱力感の出た方が多かったと思います。
でお、「自分ができない時はまわりも同じ」、日商簿記 1 級は相対試験である事を思い出し、こんな時こそ、工原で挽回のつもりで頑張るべきです。

私も本試験のつもりで解いてみました (1 時間でやってみました)

原価計算は 23 点、工業簿記は 19 点でした (TAC 配点)

前半の商会もあわせると、合格者イメージは、下記のようなものだと思います。

商業簿記 13 点・会計学 20 点・工業簿記 18 点・原価計算 21 点→72 点

今回もいつもと同じで、時間配分の仕方によって、かなり点数のブレが大きい (リスクが高い) 問題だと思います。

90 分の使い方 (今回は原価計算 20 点、工業簿記 15 点のイメージで説明します)

5 分 : 全体を見渡して、どこから解くかを考える

原価計算は 40 分で一気にいこう。

工業簿記は第問 3 以外で確実に加点しましょう。たぶん本試験配点では 20 点前後と
思われます。

では、解説をすすめます。

まずは原価計算から説明します。

- (A) 2,000 (B) 500
- (B) 2,200 (C) 2,000
- (A) 820,000 + 1,122,000
- (B) 810,000 + 1,342,000
- (C) 812,000 + 1,331,000

T-7加工

A 406A

2,000

(B) 10300

(C) 510A

1,800 + 3 = 540,900

1,800

(B) 10000

(A) 800 (B) 1,0kg (C) 0.12

(A) 2 (B) 120 (C) 0.58

2,604 = 432,480

(B) 1,122,000 (C) 1,020,000

1,800,000

- (A) 2,050,000 + 1,020,000
- (B) 2,102,500 + 1,220,000
- (C) 2,030,000 + 1,210,000

1,440

B 405A

2,000

(B) 10300

(C) 610A

1,342,000

2,000

(A) 800 (B) 1.2kg (C) 0.22

(A) 2 (B) 13 (C) 0.58

1,220,000

10,000

1,000

22,000

13 → 1,000
A → 2,900
C → 1,000
2,900

C 406A

1,000

(B) 10300

(C) 605A

1,331,000

(A) 800 (B) 2.0kg (C) 0.42

(A) 2 (B) 14 (C) 1.9

1,210,000

2,000 + 2,400 + 2,000 = 6,400

T-2A (A) 7,000 × 410A = 2,870,000

(B) 2,835,000

(C) 2,842,000

6.42 ÷ 6.70 × 2,000 × 800 = 1,607,500

1,929,000

1,607,500

1,020 ÷ 1,000 × 200 × 700 = 102,000

207,000

207,000

200 + 400 + 400

4,879,500

4,968,000

4,653,500

(A) 5 (B) 5A × (C) 2,200 + 2,000 = 4,200

(B) 7,800,000

(C) 406A

54,600,000 - 23,400,000 = 31,200,000

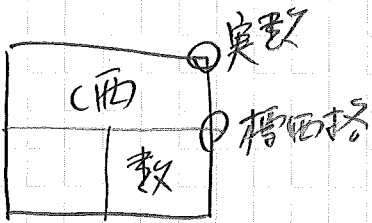
15,600,000

7,800,000

5,200A = 1,500

4,921,000

※131回 原価計算



② 変動 $\frac{20,000}{80,000} = 0.25 \times 10,000 = 2,500$

$\frac{10,000}{20,000} = 0.5 \times 19,800 = 9,900$

32,400 \leftrightarrow 33,912

